



岡本 敏男



日本銀行
は「賃金上
昇を伴う形
での2%の
物価水準を

持続的・安定的に実現すること」を目的に、長短金利操作（イールドカーブコントロール）の枠組みによる大規模な金融緩和を継続して実施しています。
現時点では輸入物価上昇などを背景に、消費者物価指数の前

「物価安定の目標」実現に向けて

年比は3%台で推移していま、年物長期金利目標の運用を柔軟
す。物価の先行きは、海外の経 化し、今後生じうる上下双方
済・物価動向や資源価格の動向 のリスクに機動的に対応でき
に加えて企業の賃金・価格設定 ようにしています。

行動など、上下双方方向に不確実 今年の春闘では、労働需給が
性が極めて高い状況であり、ま 引き締まる中、物価上昇を賃金
だ2%の「物価安定の目標」を に反映する動きが広がり、昨年
持続的・安定的に実現すること を大きく上回る賃上げが実現し
を見通せる状況には至っていま ました。企業による価格転嫁の
せん。 動きも続いており、デフレ期以

現状では、金融引き締めが遅 降に定着した企業の賃金・価格
れて2%を超えるインフレが持 設定行動等に変化の兆しがみ
続してしまうという上方のリス られています。日本銀行では、賃
スクよりも、金融緩和の拙速な 金と物価の好循環の実現に向
修正によって2%の「物価安定 け、粘り強く金融緩和を継続し
の目標」を実現する機会を逃し ていくことで、現在みられてい
てしまうという下方方向のリスク る「変化の芽」を大事に育てて
の方が大きいと判断していま いくことが重要である、と考え
す。7月の金融政策決定会合で ています。

は、長短金利操作について、10 (日本銀行鳥取事務所長)